丹波新聞

1924年創刊
〒669-3309
兵庫県丹波市柏原町柏原201
丹波新聞社
TEL (0795) 72-0530㈹
FAX (0795) 72-1956
URL http://tanba.jp
E-mail tanba@tanba.jp
丹波篠山支局
〒669-2212
兵庫県丹波篠山市大沢2-6-3
TEL (079) 506-4338
FAX (079) 506-1612
毎週日曜日・木曜日発行
月ぎめ購読料1,450円(税込)

チョコレートリキュール
モンテオエステ
トロリと濃厚リッチな味わい
想像の3倍チョコレート
㈱西山酒造場
丹波市市島町中竹田1171
TEL(0795)86-0331㈹
https://www.tsuzumiya.com/

カードで「もしも」の備え

身元や連絡先記入

高齢化顕著な2地区で配布 「取り組み広がって」

誰もが安全に暮らせるまちに―。丹波市の平均高齢化率（35・5％、今年1月末時点）を上回る青垣町芦田（41・7％）、春日町春日部（38％）の2地区で、病気で搬送されるなど「もしも」のときに、駆け付けた救急隊や警察、近隣住民らが即座に対応できるよう、身元や緊急連絡先などをあらかじめ記入しておくカードが全戸配布された。配布した両地区の自治振興会、自治協議会の役員らは「この取り組みが市全域に広がっていけば」と願う。（澁谷晃平）

芦田地区

「安心につながれば」

芦田地区で配布した「芦田あんしんカード」を手にする足立会長＝青垣町田井縄で

芦田自治振興会（足立秀一会長）は昨年10月、「芦田あんしんカード」（A4サイズ）を全約500戸に配布した。家族の名前や生年月日、持病、血液型、携帯番号のほか、親戚や親きょうだいらの緊急連絡先が記せる。

目に付きやすい冷蔵庫に貼れるマグネットと、中身が他人に見えないよう四つ折りにしたカードを収納できる透明なケースも一緒に配った。

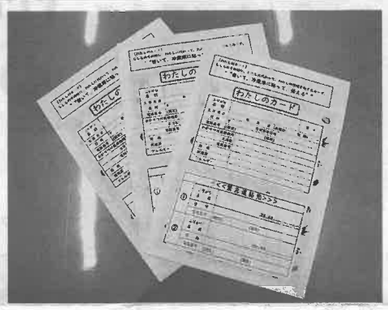
地域で元気に楽しく住み続けられることを目指して策定した「芦田支えあい推進計画」の取り組みの一環。同自治振興会や市、市社会福祉協議会のメンバーらで少子高齢化社会に対応した地域づくり活動を話し合った。

「とにかく住民の安心につながれば」と足立会長（73）＝青垣町口塩久＝。「能登半島地震でも、近所の人と助け合ったおかげで津波から逃げられたという話を聞いた。何かあったときのために、普段のコミュニケーションが大事」と話し、「あんしんカードが『あんたんとこもしとってか』という話のタネにもなる」と期待する。

春日部地区

住民の声を形に

春日部地区自治協議会（笹川一太郎会長）は、毎月発行する広報紙「こみにぺえじ」（A4サイズ）の今年1月号の裏面を「わたしのカード」とし、全約650戸に配った。紙面をピンク色にし、目立つように工夫。身元や緊急連絡先に加え、かかりつけの医療機関や常用薬、アレルギーなどを記す欄も設けた。



春日部地区で配られた「わたしのカード」

芦田地区の取り組みを市の広報紙で知った住民からの「こんなんあったらええな」という声を受け、同地区のカードを参考にしながら形にした。

春日部地区では、独居住民も増えているといい、同自治協議会は、死後に備える「終活」に関するセミナーなどを定期的に開いている。

事務局担当者は「行政ではできない地域の細かい問題を把握し、少しでも解決につなげていきたい」と話している。

境内ぎっしり見物客

伝統の行事「鬼こそ」

山南町谷川 常勝寺で

法道仙人に続き回廊を練り歩く鬼たち＝山南町谷川で

無病息災などを願う厄払いの伝統行事「鬼こそ」（追儺式）が11日、山南町谷川の常勝寺で営まれた。新型コロナ禍明け後初めて、また3連休中の日曜とあって、境内はカメラ愛好家や見物客であふれんばかりにぎわった。

僧侶が無病息災や五穀豊穣を祈願する法要をし、鉦や太鼓が鳴り響く中、縄で体を縛られ、長い乱れ髪に飛び出した目、大きな口をした鬼4匹が登場。法道仙人（足立陽嵩さん）の後に松明や矛、太刀、錫杖を手にした足立祐貴さん、足立孝さん、藤本まんさん、村上康平さんの扮する鬼が続き、回廊を独特の所作で歩き、参拝者の厄を払った。

最後は御利益があるとされる松明を参拝者に投げた。焚き木をとめの部分を拾った上月さん（久下小2年）「近くに落ちてきたに飾りたい」と喜んだ。昨年は同じ物を健太さん(35)が拾った。

鬼役の一人、村上(27)は、西宮市から帰りして参加。久下年時に法道仙人役をし、鬼は初めて。「一は一夜漬け」と笑「父も守ってきたし分も伝統を受け継ぐ感はある」と話して

新型コロナの間、を見合わせていた餅が久々にあり、参拝両手を高く上げ、餅かんでいた。

同寺の開祖、法道が鬼を改心させたという伝えにちなみ、約0年前から続く。保が継承している。

権利擁護支援紹

市がフォーラ

3月2日、春日

丹波市は3月2日2―4時、ハートフすが（春日町黒井）

広報誌が全国優秀賞

丹波市社協「ほっと通信」 「笑顔良い」と評価

全国優秀賞の表彰状と盾、受賞した広報誌を手にする社協広報委員たち＝柏原町柏原で

丹波市社会福祉協議会の広報誌「ふくしほっと通信」11月号が、今年度の「全国社協広報紙コンクール」（同実行委員会主催）で、最優秀賞（1点）に次ぐ優秀賞（2点）に入った。障害者総合支援法に基づく、市内事業所で働く人のインタビュー記事をまとめた特集企画などが評価された。力を入れて取材した号の受賞を喜んでいる。全国53社協がエントリー。同社協は初出品で初受賞。

広報誌はA4判、8ページ。表紙は、「丹波GOGOフェスタ」で街頭募金に協力する市民と生徒を捉えた写真。特集は、同支援法関連。最終ページは、福祉に関わる人物紹介「ほっとさん」。

表紙は、地域の人が写っていること、特集は利用者の生の声が入っている点などが評価された。紙面レイアウトも研修を受け、写真を目立たせるなど工夫、技術面も評価された。他の受賞作はカラー刷りだが、同社協は2色刷り。「笑顔が良く、白黒印刷なのにカラーに見えた」と審査講評をもらった。

広報委員会は30、40歳代の5人。主担当の地域福祉課、平岡瑞姫さん(36)は、「外部から価はモチベーションがる。さらに市民にでもらえる広報誌をたい」と言い、「社『支所通信』は、身情報を、『ほっと通は社協として伝えたとを掲載している。読んでもらえれば」Rしている。

びす祭 4年ぶり活気

氷上町成松 「穏やかな年に」

餅まきを楽しむ参拝者たち＝氷上町成松で

上町成松の蛭子神社10の両日、「成松えびす祭」（成松連合区自治会、氏子総代会主催）が開かれた。コロナ禍で規模を縮小するなどして開催してきたが、4年ぶりにもとの活気が戻った。両日とも人気の福餅まきの際には境内いっぱいに人があふれ、笑顔が広がっていた。

福娘による吉兆販売、招福祈祷、成松ロイヤルクラブによる豚汁うどんの販売などが行われた。当たり札付きの福餅まきは両日で計1500個をまいた。

夫の実家が神社の近くという荻野清子さん(37)＝大阪府吹田市＝は家族4人で初めて参加。500円のたんば共通商品券が当たったと喜び、「子どものためにも健康で元気で仲良く暮らしたい」と笑顔だった。

コロナ禍は、神事のみとしたり、食べ物の販売はとり止めたりしてきた。同連合区の足立宏規区長は、「商売繁盛の神様ではあるけれど、招福の意味もある。能登半島地震被災地の一日も早い復興を祈りつつ、われわれの地域も災害もなく、明るく穏やかに暮らせる年になれば」と話していた。

フィットネスジム スイミングスクール
会員募集中
詳細はPSKホームページをご確認ください。
お気軽にお問い合せ下さい

SINCE 1924 100th Anniversary